

## 米国 ガソリンを除く小売売上高は拡大ペース鈍化（06年4月小売売上高）

発表日：06年5月11日（木）

～ガソリン販売を除けば前月比+0.1%～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

### 小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			ガソリン
		除く車		自動車	家具	家電		衣料品		
05/04	+1.8	(+8.4)	+1.6	+2.2	+2.3	+1.3	+0.3	+1.3	+3.1	+1.0
05/05	▲0.5	(+5.8)	+0.1	▲1.6	▲2.5	+0.1	▲0.2	+0.2	▲0.7	+0.3
05/06	+1.3	(+9.4)	+1.0	+1.8	+2.5	+1.7	+0.5	+1.1	+1.3	+2.2
05/07	+2.5	(+9.9)	+0.4	+6.1	+9.7	▲0.0	+0.3	+0.5	▲1.0	+3.5
05/08	▲1.8	(+8.1)	+1.1	▲6.9	▲11.1	+1.2	+0.3	+1.2	+0.5	+4.3
05/09	+0.4	(+6.6)	+1.5	▲1.6	▲3.6	+2.1	+1.1	+1.6	▲0.2	+6.0
05/10	+0.3	(+6.2)	+0.7	▲0.6	▲1.6	▲1.2	+0.7	+0.7	+2.8	▲1.1
05/11	+0.6	(+6.7)	▲0.4	+3.3	+4.7	+0.5	+0.2	▲1.0	▲0.1	▲6.2
05/12	+0.4	(+5.8)	+0.2	+0.6	+1.4	▲0.7	▲1.2	+0.3	▲0.2	▲0.0
06/01	+3.0	(+9.4)	+2.7	+5.2	+4.1	+6.6	+7.1	+1.7	+2.6	+4.5
06/02	▲0.8	(+7.4)	▲0.2	▲2.4	▲3.1	▲2.6	▲3.5	+0.3	▲1.1	▲1.3
06/03	+0.6	(+7.9)	+0.5	+1.1	+1.0	+0.4	+0.1	+0.4	+0.4	▲0.0
06/04	+0.5	(+6.6)	+0.7	▲0.6	▲0.4	▲0.1	+0.4	+1.2	+0.3	+4.6

(出所) 商務省 (Department of Commerce)

(注) 数字は季調済前月比。但し、( ) 内は前年同月比 (未季調)。

\*1: 耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。

\*2: 非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

### 自動車を除く小売売上高は同+0.7%と市場予想を下回った

06年4月の小売・飲食サービス売上高は、自動車、家具の減少によって前月比+0.5%と減速し、市場予想である同+0.8%を下回った。変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.7%と市場予想の同+0.9%を下回ったものの、2、3月合計で0.2%ポイント上方改定されたことを考慮すれば、市場予想通りの結果といえよう。もっとも、ガソリン価格の上昇によって小売売上高が押し上げられており、消費需要がさらに強くなっていることを示すものではない。全体からガソリンを除いた小売・飲食サービス売上高は前月比+0.1%と鈍化している。また、ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高（自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高）は、同+0.2%と3月の同+0.6%から鈍化した。

基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でみると、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は+9.2%（3月+11.3%）と鈍化したものの高い伸びを維持している。また、自動車・ガソリン販売を除く小売・飲食サービス売上高も4月に+8.6%（同+11.2%）と高い伸びを維持した。このように、雇用・所得の拡大持続、温暖な天候、イースター関連消費の増加、住宅価格・株価の上昇を背景に、小売売上高は堅調さを維持しているが、年初に暖冬等により押し上げられた反動、ガソリン価格の上昇等もあり小幅鈍化している。

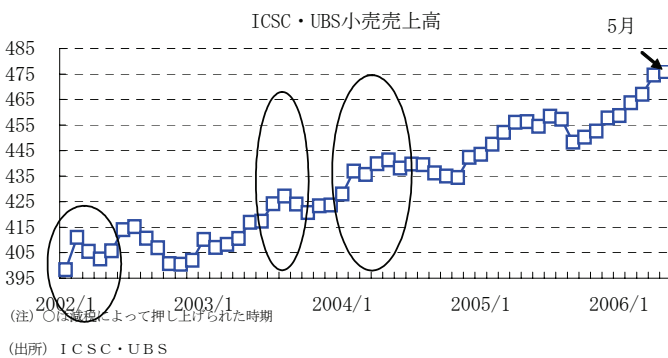
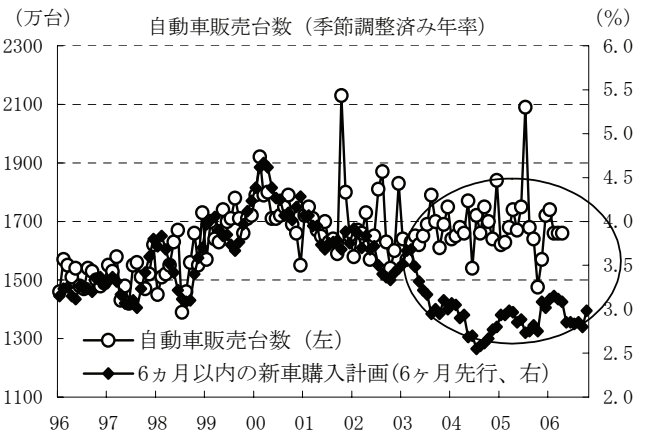
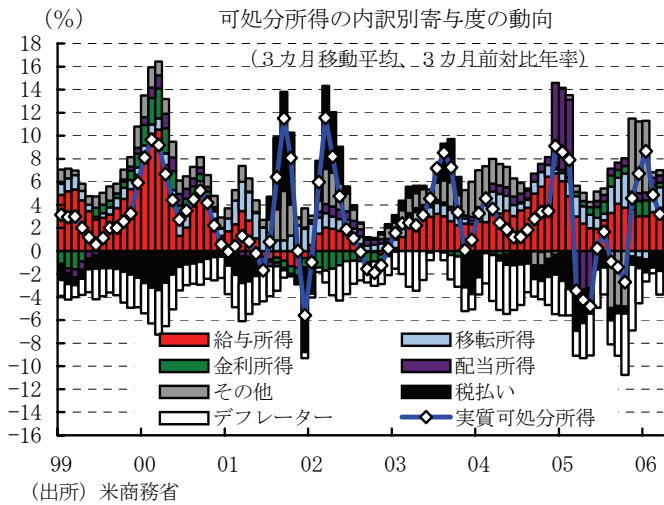
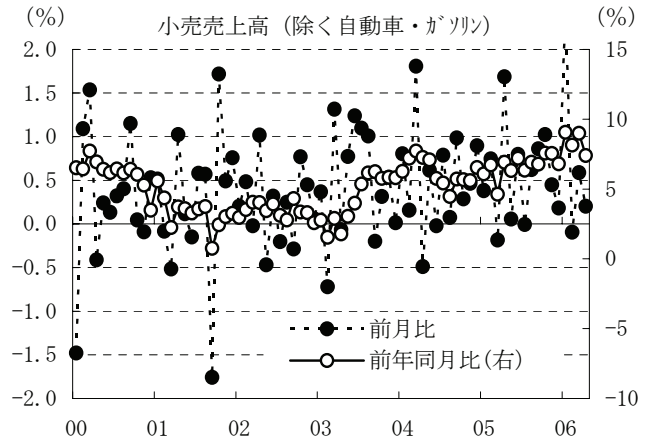
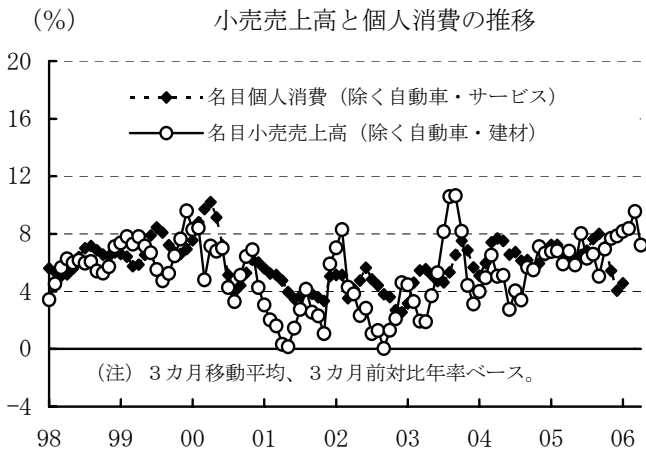
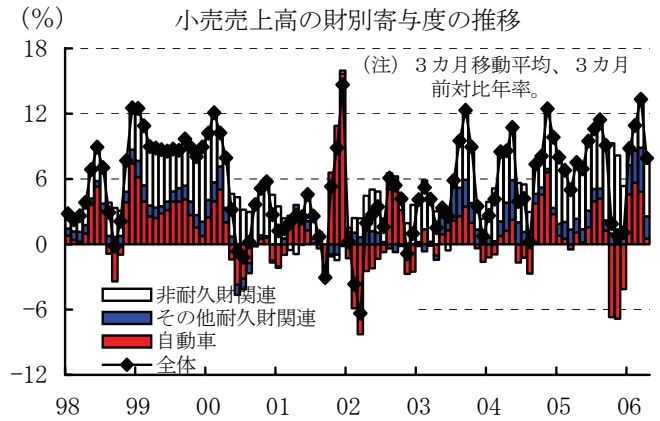
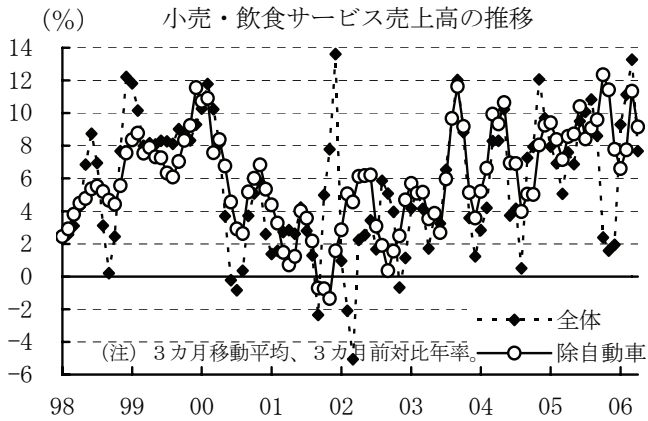
## 耐久財が減少も非耐久財が大幅増加

財別の動向をみると、非耐久財関連では、スポーツ用品・書籍・趣味用品店が前月と同率、通信販売、飲食店、薬局、衣料品が減速し、建設資材店、その他小売が減少に転じた。一方、飲食料品店が増加に転じ、ガソリン価格が上昇したガソリンスタンド、イースター関連の需要が増加した百貨店等一般小売が加速したことから、非耐久財は前月比+1.2%（3月同+0.4%）と伸びが速まった。他方、耐久財販売は家電販売が加速したものの、自動車販売、家具が減少に転じたことから同▲0.6%（同+1.1%）と減少した。

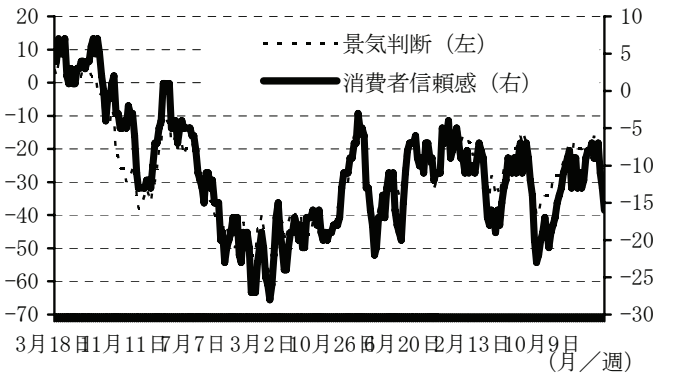
## 4～6月期の個人消費は鈍化が予想される

GDPベースの個人消費算出に使われる小売・飲食サービス売上高（除く自動車・ガソリン・建材）は、4月に前月比+0.5%（3月同+0.4%）と加速したものの、1～3月期対比比年率では+3.0%と1～3月期の前期比年率+9.5%から大幅に減速している。加えて、4月の自動車販売台数は季節調整済み年率1660万台と1～3月期の同1687万台から減少した。

5月入り後の小売動向は、暖冬効果の剥落、エネルギー価格の上昇によって5月第1週の小売売上高が4月平均対比+0.3%と4月の前月比+1.6%から減速している。以上のように、4～6月期の実質個人消費は雇用・所得の拡大が続くものの、暖冬効果の剥落、エネルギー価格の上昇等によって前期比年率+3%程度に鈍化すると予想される。



ABC/WINTPO ス週次消費者信頼感指数構成項目の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。